手術部オカレンス報告導入医療安全に関する インシデント・アクシデント報告数の変化

旗手和彦[†] 本井綾子 井上準人
金澤秀紀 安達 献

第77回国立病院総合医学会
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 79 No. 2 (88-93) 2025

要旨

【はじめに】2022年7月に導入した手術部オカレンスレポートの結果分析および導入前後における医療安全に関するインシデント・アクシデント報告数の変化について検討した。【目的】2022年7月から国立病院機構相模原病院に導入した手術部オカレンスレポートの結果を解析し、多職種の医療安全に対する意識改善がすすんだことを明らかにすることを目的とした。【方法】オカレンスレポートは確認事項、手術、薬剤、輸液、輸血、麻酔、手術機材、その他の7つの大項目とそれぞれの内容についての45の小項目を設定し、オカレンスの有無にかかわらず全症例を手術室師長に報告を義務付けた。2022年7月から2023年7月までの13カ月間の月ごとのレポート件数の総手術数に対する割合を検討した。また2021年4月から2023年7月までの月ごとの医療安全インシデント・アクシデント報告数の経時的な変化について検討した。【結果】オカレンスレポートの総数は13カ月で319件であり、月平均の報告数は24.5件で総手術数に対する割合は12.5%であった。インシデント・アクシデント報告数は、レポート導入前平均142件に対して、導入後は平均244件と増加し、とくに診療部、看護部からの報告増加を認めた。オカレンスレポート件数の総手術数に対する13カ月の平均は約12%であった。手術部オカレンスレポート導入後に、全体の報告数が増加傾向となった。もともと看護部からの報告数の割合は以前から最多であったが、看護部全体の報告数も増え、診療部からの報告数増加を認めた。【考察】手術部オカレンスレポートの確立により、院内全体のインシデント報告総数、および間違いは認められたが患者に実施されなかったレベル0の報告数が増加した。医療安全に関する多職種間のコミュニケーションの改善を認めた。内視鏡部門、IVR (Interventional Radiology: 画像下治療) 部門、心臓カテーテル検査部門がオカレンスレポートシステムを構築する結果につながった。【結語】手術部オカレンスレポート導入は、院内医療従事者の医療安全に対する意識改善において、重要な役割を果たした可能性があると考えられた。

キーワード インシデントレポート, オカレンスレポート, 医療安全

国立病院機構相模原病院 外科 手術部 医療安全管理室 [†]医師
著者連絡先：旗手和彦 国立病院機構相模原病院 外科
〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台18-1
e-mail : hatate.kazuhiko.ak@mail.hosp.go.jp
(2024年5月14日受付 2025年4月18日受理)

Changes in the Number of Incident and Accident Reports related to Medical Safety Following the Introduction of Operating Room Occurrence Reports

Kazuhiko Hatate, Ayako Motoi, Hayato Inoue, Hidenori Kanazawa, and Ken Adachi
Department of Surgery, Operating room, Medical Safety, NHO Sagami Hospital
(Received May 14, 2024, Accepted Apr. 18, 2025)

Key Words : incident report, occurrence report, medical safety